

■ 実務経験のある教員等による授業科目一覧

以下の授業科目は、実務経験のある教員等が担当しています。

詳細は各シラバスを参照してください。

【工芸学部】

no	名称	単位	分類	主担当	
1	京都学	2	全学共通	担当:新谷 裕久	オムニバス
2	しごと論Ⅰ	2	全学共通	担当:中井川 正道	オムニバス
3	しごと論Ⅱ	2	全学共通	担当:安藤 眞吾	オムニバス
4	表現技術論	2	全学共通	担当:富家 大器	オムニバス
5	工芸概論	2	専門:美術工芸	担当:玉村 嘉章	オムニバス
6	伝統工芸概論	2	専門:美術工芸	担当:玉村 嘉章	オムニバス
7	伝統工芸産業工学	2	専門:美術工芸	担当:遠藤 公誉	オムニバス
8	伝統工芸材料科学	2	専門:美術工芸	担当:遠藤 公誉	オムニバス
9	デザイン作図演習	2	専門:建築	担当:小椋 吉隆	
10	室内意匠論	2	専門:建築	担当:小椋 吉隆	
11	建築施工法	2	専門:建築	担当:河村 大助	
12	建築材料	2	専門:建築	担当:根来 宏典	

【建築学部】

no	名称	単位	分類	主担当	
1	京都学	2	全学共通	担当:新谷 裕久	オムニバス
2	しごと論Ⅰ	2	全学共通	担当:中井川 正道	オムニバス
3	しごと論Ⅱ	2	全学共通	担当:安藤 眞吾	オムニバス
4	表現技術論	2	全学共通	担当:富家 大器	オムニバス
5	デザイン作図演習	2	専門	担当:小椋 吉隆	
6	室内意匠論	2	専門	担当:小椋 吉隆	
7	建築生産論	2	専門	担当:河村 大助	
8	建築材料	2	専門	担当:根来 宏典	

講義名	京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 工芸学部

到達目標	「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。
授業概要	京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいている。国内外から年間5千万人を超える観光客が訪れる、京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（行政の総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、東山区役所、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。 本学ディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回(オムニバス方式) ※第2回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇 第1回 京都国立博物館・京の大仏について／事務局長 植田義雄 第2回 「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局総合政策室大学政策 第3回 留学生施策の推進／総合企画局総合政策室大学政策 第4回 京都駅東部エリア活性化将来構想／総合企画局プロジェクト推進室 第5回 これからの京都観光～住んでよし、訪れてよし、働いてよし～／産業観光局観光MICE推進室 第6回 時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課 第7回 都心再生のまちづくり／都市計画局まち再生・創造推進室 第8回 京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第9回 わたしたちの伝統産業／産業観光局クリエイティブ産業振興室 第10回 博物館で学んでみませんか？／京都市教育委員会事務局生涯学習部 第11回 SDGs（持続可能な開発目標）とは？／総合政策局総合政策室SDGs・市民協働推進室 第12回 世界の都市「KYOTO」として成長していくために／総合企画局国際交流・共生推進室 第13回 家族を守る、地域を守る消防団 /消防局総務部消防団課 第14回 東山区のまちづくり 山紫水明の都 結び合う心 東山の未来／東山区役所地域力推進室 第15回 まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか？」／学長 新谷裕久 ※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。5回以上欠席の場合は不可とする。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する（クラスルームに添付）。
参考書 参考資料	京都市ホームページ（www.city.kyoto.lg.jp）
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。 クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。

予習・復習指導	予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等をチェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-TR102L

講義名	しごと論 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 工芸学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。
授業概要	様々な仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。本学のディプロマポリシー 1、2 に該当する。
授業計画 授業内容	<p>オムニバス形式／全15回</p> <p>第1回 新谷 裕久（大学企画・広報） 第2回 宮本 貞治（木工） 第3回 高田 光雄（建築家） 第4回 三木 表悦（漆芸家） 第5回 国広 ジョージ（建築家） 第6回 細尾 真孝（西陣織） 第7回 阿部 祐二（俳優/リポーター） 第8回 宮沢 孝幸（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所） 第9回 コシノ・ジュンコ（デザイナー） 第10回 堀木 エリ子（和紙デザイナー） 第11回 籾 邦充（数寄屋大工） 第12回 西堀 耕太郎（伝統工芸） 第13回 大西 英玄（清水寺成就院住職） 第14回 川尻 潤（陶芸家） 第15回 中井川 正道（環境デザイン）</p> <p>※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります（上記は今年の講師）</p>
成績評価	毎回の小レポート80%、受講態度20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-CA101L

講義名	しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 眞吾	KYOB I 工芸学部

到達目標	将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。
授業概要	1年次の「しごと論I」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚を改めて3年次に実施する。美術工芸、建築の実務家教員によるオムニバス方式授業として、教員の専門的テーマから具体的なイメージを与えることにより、将来の就職への方向性を明確にする。 本学のディプロマポリシー 1、2に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス方式 / 全 15 回 第 1 回 (新谷 裕久) ガイダンス、防災・安全衛生管理について 第 2 回 (高田 光雄) 建築計画について 第 3 回 (遠藤 公誉) 漆芸について 第 4 回 (小椋 吉隆) ゼネコンのしごとについて 第 5 回 (山内 貴博) 建築とランドスケープについて 第 6 回 (玉村 嘉章) 木工について 第 7 回 (安田 光男) ミラノでの「しごと」について 第 8 回 (川尻 潤) 陶芸について 第 9 回 (井上 年和) 歴史的建造物の保存修理について 第 10 回 (中井川正道) 環境デザインについて 第 11 回 (人見 将敏) 建築設計と社会との関わりについて 第 12 回 (小林 泰弘) 文化財について 第 13 回 (津村 健一) 美術と造形について 第 14 回 (井上 晋一) 集合住宅の調査と設計について 第 15 回 (安藤 眞吾) ものづくりデザインについて、総括
成績評価	毎回の小レポート (80%)、期末試験 (論述形式) (20%) によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義 (1 コマ) に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、専門用語 (作品・作家・技法) について復習し、関連用語 (作品・作家・技法) についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	1 年次開講科目である「しごと論I」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。

教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-CA302L

講義名	表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。 工芸学部ディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	<p>全15回 オムニバス形式</p> <p>第1回 富家 大器 全体ガイダンス 第2回 岡 達也 ポスター表現 1 第3回 岡 達也 ポスター表現 2 第4回 渡邊 俊博 立体の表現 第5回 中山 智博 3Dの表現 1 第6回 中山 智博 3Dの表現 2 第7回 松本 浩作 照明の表現 1 第8回 松本 浩作 照明の表現 2 第9回 松本 浩作 照明の表現 3 第10回 安藤 眞吾 オノマトペ 1 第11回 安藤 眞吾 オノマトペ 2 第12回 中井川 正道 美の表現 1 第13回 中井川 正道 美の表現 2 第14回 富家 大器 家具・建物の表現 第15回 富家 大器 まとめとレポート</p> <p>* 講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります</p>
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	講師の都合により内容、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術 伝統と学び 工芸概論 デザイン概論 しごと論Ⅰ、Ⅱ 発想と表現
課題に対するフィードバックの方法	第15回終了後に総評をweb上に公開する。
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-GE221L

講義名	工芸概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く工芸全般の意味を理解する。 ・ 工芸に対する広い視野を身につける。
授業概要	<p>広く工芸の意味を理解すると共に、古くから伝わる工芸が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の切り口をとおして論じる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する</p>
授業計画 授業内容	<p>オムニバス / 全 15 回</p> <p>第 1～ 3回 陶磁器業界の近況と今後を概観すると共に、「ものづくり」の変遷を成形技法、加飾技法、素材などを通じて解説し、工芸への理解を深める（横山直範）</p> <p>第 4～ 7回 物造りという観点から時代をさかのぼり彫刻作品、仏像彫刻作品が、生活に定着し馴染んできたか、映像、写真資料を参考に学ぶ（青木太一）</p> <p>第 8～10回 木工の技術・材料・デザイン等の解説。現在活躍している工芸家の作品・映像等を通して多様な工芸のスタイルを紹介する（玉村嘉章）</p> <p>第11～14回 伝統的な漆工芸品の歴史、構造、制作技法、諸道具について、また漆工芸を支える素材の内、主に国産漆の現状について概略を説明する（遠藤公誉）</p> <p>第 15 回 総括（玉村嘉章）</p> <p>※順番が前後する場合や担当者が変更になる可能性があります。</p>
成績評価	複数回実施する小レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』（東京国立近代美術館工芸課編淡交社）
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をする事。 配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法など）について復習し、関連用語（作品・作家・技法など）についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-BA101L

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	工芸学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸業界の裾野の広さを理解する。 ・各工芸について基本的な知識を身につける。
授業概要	<p>京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。</p> <p>京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1、2、3に該当する。</p>
授業計画 授業内容	<p>オムニバス／全15回</p> <p>第1回 玉村 嘉章 概論 第2回 藤井 収 漆芸 第3回 小田 珠生 表具 第4回 内田 俊秀 伝統工芸品 第5回 八田 誠治 友禅・西陣 第6回 須藤 拓 鑄金・鍛金・彫金 第7回 若林 卯兵衛 仏壇・仏具① 第8回 若林 卯兵衛 仏壇・仏具② 第9回 綾部 之 京指物 第10回 小林 泰弘 文化財 第11回 野口 康 金箔 第12回 猪飼 祐一 京焼 第13回 石田 正一 竹工芸 第14回 渡邊 晶 刃物 第15回 玉村 嘉章 総括</p> <p>※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。詳細については第1回目の概論において説明します。</p>
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	各講義の担当教員が必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	<p>工芸の見かた・感じかた(東京国立近代美術館工芸課：編)淡交社 明日への伝統工芸(浅見 薫著)財京都伝統工芸産業支援センター [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]</p>
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	<p>(内容)各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と覚えることについて調べること。</p> <p>(時間)講義1コマに対して4.5時間の事前学習をすること。</p>
関連科目	同じく必修科目である「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。

課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-BA103L

講義名	伝統工芸産業工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部

到達目標	産業としての伝統工芸について、業種ごとに成り立ちや技術的・意匠的特色、また世の中での位置づけなど、概要を認識し理解する。ものづくりの高度な技について、工学的な側面からの理解を深める。
授業概要	<p>伝統工芸産業について、その定義や業種ごとの特色、地域ごとの特色、問題点などについて多岐にわたり論じる。様々な技術を研究する応用科学である「工学」の立場より、伝統工芸・伝統産業について考察する。伝統工芸品を成立させる構造、意匠、技法、材料などの諸要素と、伝統工芸の産地を取り巻く地理的条件などのさまざまな要素の、密接な関連性について学び、工芸に対し更に認識を深める。</p> <p>京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1・2 美術工芸学科のディプロマポリシー 1・2・3 に該当する</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週1日</p> <p>第1週 遠藤 公誉 漆芸 第1回目 大規模漆器産地 輪島について その1 第2週 遠藤 公誉 漆芸 第2回目 大規模漆器産地 輪島について その2 第3週 遠藤 公誉 漆芸 第3回目 漆芸の道具 漆刷毛の構造と使用について 第4週 青木 太一 彫刻 第1回目 仏師による仏像修復 第5週 玉村 嘉章 木工 第1回目 木工・家具産業の歴史と構造 第6週 玉村 嘉章 木工 第2回目 五大家具産地の成り立ちと特徴 第7週 玉村 嘉章 木工 第3回目 機械化による木工業界の変化 第8週 川尻 潤 陶芸 第1回目 京焼・清水焼 歴史と現在 その1 第9週 川尻 潤 陶芸 第2回目 京焼・清水焼 歴史と現在 その2 第10週 川尻 潤 陶芸 第3回目 京焼・清水焼 歴史と現在 その3 第11週 遠藤 公誉 漆芸 第4回目 漆芸の道具 蒔絵筆の構造と使用について 第12週 遠藤 公誉 諸工芸 第4回目 江戸時代の職人技と機械工学の融合 その1 第13週 遠藤 公誉 諸工芸 第5回目 江戸時代の職人技と機械工学の融合 その2 第14週 遠藤 公誉 諸工芸 第6回目 江戸時代の職人技と機械工学の融合 その3 第15週 遠藤 公誉 総括 伝統産業の現代産業への転換について</p>
成績評価	講義ごとの小レポートの内容によって評価する。
教科書	なし
参考書 参考資料	<p>「なぜ漆はジャパンと呼ばれたか」 中室勝郎著 六耀社 「近代漆器の産業技術と構造」 北野信彦著 雄山閣 その他講師ごとに参考書などを紹介する。</p>
履修上の注意	オムニバス形式のため、担当する教員により配布資料が無い場合がある。講義の内容を注意深く聴講することは勿論であるが、分野が多岐にわたるため、予習時などに自主的に予備知識を獲得しておくこと。
予習・復習指導	<p>1コマに対して予習に1.5時間、復習に3時間を目安とすること。</p> <p>参考書「なぜ漆はジャパンと呼ばれたか」第三章 なぜ、輪島に輪島塗があるのか P115～173 を事前に読んでおくこと。その他、配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法など）について</p>

	復習し、関連用語（作品・作家・技法など）についても調べるなど理解を深めておくこと
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸材料科学」
課題に対するフィードバックの方法	オムニバス形式のため、フィードバックの方法は各教員により異なる。クラスルームを活用したフィードバックや講義中のフィードバックなど様々な形態をとる。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CAC-DE301L

講義名	伝統工芸材料科学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部

到達目標	伝統的、または現代の産業における「ものづくり」について、科学の視点から様々な考察し、より深く理解・認識することを目標とする。
授業概要	伝統工芸や様々なものづくりの分野で用いられる材料は、長い間に培われた作り手の経験の蓄積によって吟味されてきた。現代の材料科学の観点から、さまざまな「ものづくり」に用いられた材料と技術を調査研究していくと、その選択の妥当性に改めて驚かされることが多い。本講では、伝統的な様々な素材を科学的な眼で見ていくことが新たな発見につながることを様々な事例で紹介する。美術工芸学科のディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 遠藤 公誉 諸工芸 和紙について 第2週 三木 表悦 漆芸 漆の胎の材について 第3週 ゲストスピーカー 漆芸 漆について 第4週 宮本 貞治 木工 木工材料について 第5週 守崎 正洋 陶芸 陶芸材料についてⅠ 第6週 守崎 正洋 陶芸 陶芸材料についてⅡ 第7週 中井川 正道 デザイン 舗装Ⅰ 第8週 中井川 正道 デザイン 舗装Ⅱ 第9週 塚本 カナエ デザイン ガラスについてⅠ 第10週 塚本 カナエ デザイン ガラスについてⅡ 第11週 津村 健一 デザイン 合成樹脂について 第12週 渡邊 俊博 デザイン カッティングシートの表現方法Ⅰ 第13週 渡邊 俊博 デザイン カッティングシートの表現方法Ⅱ 第14週 遠藤 公誉 諸工芸 刃物の素材と砥石 第15週 遠藤 公誉 漆芸 漆芸の加飾材料について 総括
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	特に設定しない。
参考書 参考資料	授業中適宜紹介する
履修上の注意	オムニバス形式のため、担当する教員により配布資料が無い場合がある。講義の内容を注意深く聴講することは勿論であるが、分野が多岐にわたるため、復習時などに自主的に予備知識を獲得しておくこと。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1時間の復習をすること。授業内容を深く理解するために、復習を怠らないこと。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸産業工学」
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当

講義名	デザイン作図演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小梶 吉隆	KYOB I 工芸学部
教授	森重 幸子	KYOB I 工芸学部
講師	根来 宏典	KYOB I 工芸学部
講師	江本 弘	KYOB I 工芸学部
講師	杉本 直子	KYOB I 工芸学部

到達目標	ものづくりの原点は、創造的アイデア・デザインの構築である。一方で、そのアイデアを他者へ伝え理解してもらわなければいかに素晴らしいアイデアでも実現しない。この授業では自己のアイデアを構築する練習だけでなく他者への伝達ツールの獲得を目指す。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 透視図法の基礎的原理を学習し、3次元の空間を2次元の平面上に表現する手法を理解する。 線による描画手法の演習を通して、建築物の外観・内観や、人物、樹木などをスケッチとして描く手法を身につける。 建築物を対象とし、プロポーション、ディテール、素材などについて観察して読み取る目を養う。 建築学科のディプロマポリシーの2、4に該当する。
授業計画 授業内容	全15 回／1回2コマ 第1回：オリエンテーション、線の練習、線による描写演習導入 第2回：透視図法の基礎（1）：一点透視図法、スケッチパース演習 第3回：透視図法の基礎（2）：二点透視図法、スケッチパース演習 第4回：表現手法演習（1）：線による描写演習、外観スケッチ 第5回：表現手法演習（2）：線による描写演習、外観スケッチ 第6回：表現手法演習（3）：線による描写演習、内観スケッチ、点景 第7回：表現手法演習（4）：線による描写演習、内観スケッチ、点景 第8回：表現手法演習（5）：線による描写演習 インテリア透視図基礎 第9回：空間表現演習（1）：外観スケッチ、プロポーション 第10回：空間表現演習（2）：外観スケッチ、プロポーション 第11回：空間表現演習（3）：ディテールスケッチ、構成 第12回：空間表現演習（4）：街並みスケッチ 第13回：空間表現演習（5）：都市、家具他 第14回：プレゼンテーション（1）：ポートフォリオ作成 第15回：プレゼンテーション（2）：総括、作品発表
成績評価	受講態度（30%）、演習作品の完成度等（70%）によって評価する。
教科書	フランシスD.K. チン『建築ドローイングの技法』彰国社
参考書 参考資料	授業開始時に配布される資料（必要な回）を参考にする。
履修上の注意	鉛筆（2B）、消しゴム、カッター、および初回に配布するスケッチブックを毎回持参すること。PCを持参（クラスルームに課題提示）すること。

予習・復習指導	<p>1回の演習（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 任意の建築物や、関連科目において自らが設計した作品などを対象として、各自でスケッチの練習を行うこと。 教科書の第1章を読んでおくこと。また、第2章「線ーローイングの本質」を読み、鉛筆で線の練習をしておくこと。授業後には、各回授業の内容に関連する教科書ページについて読んでおくこと。</p>
関連科目	<p>工芸実習基礎 I・II、建築デザイン演習 I・II・III</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>各回ごとにその日書いたスケッチを見ながら講評を行う。最終回には、作成したポートフォリオに対して全体での講評を行う。</p>
科目ナンバリング	<p>COM-MA203S</p>

講義名	室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小梶 吉隆	KYOB I 工芸学部

到達目標	インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。
授業概要	インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から、さらに具体的な事例を通じての解説を交え、インテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等についての講義を行う。 建築学科のディプロマシー1, 2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介 第2回 インテリア空間 第3回 インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説 第4回 インテリアスタイル 第5回 家具デザイン 第6回 ウインドトリートメント 第7回 ライティングデザイン、 第8回 インテリア設備 第9回 マテリアルコーディネート 第10回 カラーコーディネート 第11回 エルゴノミクス（人間工学） 第12回 室内環境 第13回 インテリア計画と発想 第14回 エンバサルデザイン、サステイナブルデザイン 第15回 インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート
成績評価	評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（40%）、修得確認のためのファイナルレポート＜必須＞（20%）によって評価する。
教科書	図解テキスト「インテリアデザイン」 / 井上書院 / 小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	室内意匠・生活文化に関して、日常から幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の該当講義（1コマ）章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。 また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。
関連科目	「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「伝統工芸概論」「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	毎回のミニレポート課題により、限定コメント等により質疑応答を行う。
科目ナンバリング	COM-DE308L

講義名	建築施工法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 河村 大助	KYOBI 工芸学部

到達目標	建築生産(1企画・計画、2設計、3施工、4保全、5解体・廃棄)の一連の流れを理解する。更に、各生産工程の中での、ステークホルダー、契約図書、関連法規、建築材料、工法の位置づけ、関連を理解することで建築生産についての理解を深める。
授業概要	この授業は将来、建築設計・インテリア・施工等に関わる職業を志望する学生諸君を対象に、「建物はどのようにつくられ、どの様な一生をたどるか」について具体的にビジュアルで示しつつ平易に解説する。 まず、施工については、準備、仮設工事から、本設工事、竣工検査までの全体プロセスを重視し、各種の工法の特徴、前後工事との関係などに重点を置いた説明を行う。 更に、施工の前段階である計画・設計および完成後の維持管理、リニューアル、そして、解体まで視野に入れた内容とすることにより、建物の一生を俯瞰する建築生産論の理解を目指す。 本科目は、建築学科のディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回×90分 第1回 ガイダンス、建築生産とは1、小テスト 第2回 建築生産とは2、小テスト 第3回 解体工事、小テスト 第4回 準備工事(調査)、小テスト 第5回 準備工事(仮設)、山留め工事、小テスト 第6回 杭工事、土工事、小テスト 第7回 躯体工事(コンクリート)1、小テスト 第8回 躯体工事(コンクリート)2、小テスト 第9回 躯体工事(鉄骨)3、小テスト 第10回 外装工事、小テスト 第11回 内装工事、小テスト 第12回 設備工事、小テスト 第13回 外構・その他工事、竣工、小テスト 第14回 維持・保全・改修、小テスト 第15回 建築生産とデザイン、総括
成績評価	出席態度(30点)、各授業の最後に小テスト(70点)を実施して評価する。
教科書	「施工がわかる イラスト建築生産入門」 日本建設業連合会編 彰国社
参考書 参考資料	授業の中で随時紹介する
履修上の注意	各授業の中で随時指示する。
予習・復習指導	1講義(1コマ)に対して2時間の復習をすること。
関連科目	「建築一般構造Ⅰ・Ⅱ」、「建築材料」、「建築設備」、「建築法規」、「建築構造力学Ⅰ・Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、次の講義の冒頭で、回答及びポイントの解説を行う。

教員の実務経験	30年の建築設計・工事監理の実績、および、5年のCM（コンストラクションマネジメント）実績を持つ。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-DE312L

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 根来 宏典	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築物の設計に必要なとなる材料選定の基本を理解する。
授業概要	建築材料への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学ぶ。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。建築学科のディプロマシーに1に係わる。
授業計画 授業内容	第1回 建築材料概論 第2回 木材についての講義 第3回 木質材料についての講義 第4回 植物材料についての講義 第5回 金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第6回 非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第7回 コンクリートについての講義 第8回 セメント・コンクリートについての講義 第9回 石についての講義 第10回 土・漆喰・石膏についての講義 第11回 焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第12回 ガラス、プラスチックについての講義 第13回 その他の材料についての講義 第14回 レポート発表会 その1 第15回 レポート発表会 その2
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香菜子、他著「建築材料 新テキスト」彰国社
参考書 参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA217L

講義名	京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 工芸学部

到達目標	「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。
授業概要	京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいている。国内外から年間5千万人を超える観光客が訪れる、京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（行政の総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、東山区役所、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。 本学ディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回(オムニバス方式) ※第2回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇 第1回 京都国立博物館・京の大仏について／事務局長 植田義雄 第2回 「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局総合政策室大学政策 第3回 留学生施策の推進／総合企画局総合政策室大学政策 第4回 京都駅東部エリア活性化将来構想／総合企画局プロジェクト推進室 第5回 これからの京都観光～住んでよし、訪れてよし、働いてよし～／産業観光局観光MICE推進室 第6回 時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課 第7回 都心再生のまちづくり／都市計画局まち再生・創造推進室 第8回 京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第9回 わたしたちの伝統産業／産業観光局クリエイティブ産業振興室 第10回 博物館で学んでみませんか？／京都市教育委員会事務局生涯学習部 第11回 SDGs（持続可能な開発目標）とは？／総合政策局総合政策室SDGs・市民協働推進室 第12回 世界の都市「KYOTO」として成長していくために／総合企画局国際交流・共生推進室 第13回 家族を守る、地域を守る消防団 /消防局総務部消防団課 第14回 東山区のまちづくり 山紫水明の都 結び合う心 東山の未来／東山区役所地域力推進室 第15回 まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか？」／学長 新谷裕久 ※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。5回以上欠席の場合は不可とする。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する（クラスルームに添付）。
参考書 参考資料	京都市ホームページ（ www.city.kyoto.lg.jp ）
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。 クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。

予習・復習指導	予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等をチェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-TR102L

講義名	しごと論 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 工芸学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。
授業概要	様々な仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。本学のディプロマポリシー 1、2に該当する。
授業計画 授業内容	<p>オムニバス形式／全15回</p> <p>第1回 新谷 裕久（大学企画・広報） 第2回 宮本 貞治（木工） 第3回 高田 光雄（建築家） 第4回 三木 表悦（漆芸家） 第5回 国広 ジョージ（建築家） 第6回 細尾 真孝（西陣織） 第7回 阿部 祐二（俳優/リポーター） 第8回 宮沢 孝幸（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所） 第9回 コシノ・ジュンコ（デザイナー） 第10回 堀木 エリ子（和紙デザイナー） 第11回 籾 邦充（数寄屋大工） 第12回 西堀 耕太郎（伝統工芸） 第13回 大西 英玄（清水寺成就院住職） 第14回 川尻 潤（陶芸家） 第15回 中井川 正道（環境デザイン）</p> <p>※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります（上記は今年の講師）</p>
成績評価	毎回の小レポート80%、受講態度20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-CA101L

講義名	しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 眞吾	KYOB I 工芸学部

到達目標	将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。
授業概要	1年次の「しごと論I」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚を改めて3年次に実施する。美術工芸、建築の実務家教員によるオムニバス方式授業として、教員の専門的テーマから具体的なイメージを与えることにより、将来の就職への方向性を明確にする。 本学のディプロマポリシー 1、2に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス方式 / 全 15 回 第 1 回 (新谷 裕久) ガイダンス、防災・安全衛生管理について 第 2 回 (高田 光雄) 建築計画について 第 3 回 (遠藤 公誉) 漆芸について 第 4 回 (小椋 吉隆) ゼネコンのしごとについて 第 5 回 (山内 貴博) 建築とランドスケープについて 第 6 回 (玉村 嘉章) 木工について 第 7 回 (安田 光男) ミラノでの「しごと」について 第 8 回 (川尻 潤) 陶芸について 第 9 回 (井上 年和) 歴史的建造物の保存修理について 第 10 回 (中井川正道) 環境デザインについて 第 11 回 (人見 将敏) 建築設計と社会との関わりについて 第 12 回 (小林 泰弘) 文化財について 第 13 回 (津村 健一) 美術と造形について 第 14 回 (井上 晋一) 集合住宅の調査と設計について 第 15 回 (安藤 眞吾) ものづくりデザインについて、総括
成績評価	毎回の小レポート (80%)、期末試験 (論述形式) (20%) によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義 (1 コマ) に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、専門用語 (作品・作家・技法) について復習し、関連用語 (作品・作家・技法) についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	1 年次開講科目である「しごと論I」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。

教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-CA302L

講義名	表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。 工芸学部ディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	<p>全15回 オムニバス形式</p> <p>第1回 富家 大器 全体ガイダンス 第2回 岡 達也 ポスター表現 1 第3回 岡 達也 ポスター表現 2 第4回 渡邊 俊博 立体の表現 第5回 中山 智博 3Dの表現 1 第6回 中山 智博 3Dの表現 2 第7回 松本 浩作 照明の表現 1 第8回 松本 浩作 照明の表現 2 第9回 松本 浩作 照明の表現 3 第10回 安藤 眞吾 オノマトペ 1 第11回 安藤 眞吾 オノマトペ 2 第12回 中井川 正道 美の表現 1 第13回 中井川 正道 美の表現 2 第14回 富家 大器 家具・建物の表現 第15回 富家 大器 まとめとレポート</p> <p>* 講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります</p>
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	講師の都合により内容、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術 伝統と学び 工芸概論 デザイン概論 しごと論Ⅰ、Ⅱ 発想と表現
課題に対するフィードバックの方法	第15回終了後に総評をweb上に公開する。
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-GE221L

講義名	デザイン作図演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小梶 吉隆	KYOBI 工芸学部
教授	森重 幸子	KYOBI 工芸学部
講師	根来 宏典	KYOBI 工芸学部
講師	江本 弘	KYOBI 工芸学部
講師	杉本 直子	KYOBI 工芸学部

到達目標	ものづくりの原点は、創造的アイデア・デザインの構築である。一方で、そのアイデアを他者へ伝え理解してもらわなければいかに素晴らしいアイデアでも実現しない。この授業では自己のアイデアを構築する練習だけでなく他者への伝達ツールの獲得を目指す。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 透視図法の基礎的原理を学習し、3次元の空間を2次元の平面上に表現する手法を理解する。 線による描画手法の演習を通して、建築物の外観・内観や、人物、樹木などをスケッチとして描く手法を身につける。 建築物を対象とし、プロポーション、ディテール、素材などについて観察して読み取る目を養う。 建築学科のディプロマポリシーの2、4に該当する。
授業計画 授業内容	全15回／1回2コマ 第1回：オリエンテーション、線の練習、線による描写演習導入 第2回：透視図法の基礎（1）：一点透視図法、スケッチパース演習 第3回：透視図法の基礎（2）：二点透視図法、スケッチパース演習 第4回：表現手法演習（1）：線による描写演習、外観スケッチ 第5回：表現手法演習（2）：線による描写演習、外観スケッチ 第6回：表現手法演習（3）：線による描写演習、内観スケッチ、点景 第7回：表現手法演習（4）：線による描写演習、内観スケッチ、点景 第8回：表現手法演習（5）：線による描写演習 インテリア透視図基礎 第9回：空間表現演習（1）：外観スケッチ、プロポーション 第10回：空間表現演習（2）：外観スケッチ、プロポーション 第11回：空間表現演習（3）：ディテールスケッチ、構成 第12回：空間表現演習（4）：街並みスケッチ 第13回：空間表現演習（5）：都市、家具他 第14回：プレゼンテーション（1）：ポートフォリオ作成 第15回：プレゼンテーション（2）：総括、作品発表
成績評価	受講態度（30%）、演習作品の完成度等（70%）によって評価する。
教科書	フランシスD.K. チン『建築ドローイングの技法』彰国社
参考書 参考資料	授業開始時に配布される資料（必要な回）を参考にする。
履修上の注意	鉛筆（2B）、消しゴム、カッター、および初回に配布するスケッチブックを毎回持参すること。PCを持参（クラスルームに課題提示）すること。

予習・復習指導	<p>1回の演習（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 任意の建築物や、関連科目において自らが設計した作品などを対象として、各自でスケッチの練習を行うこと。 教科書の第1章を読んでおくこと。また、第2章「線ーローイングの本質」を読み、鉛筆で線の練習をしておくこと。授業後には、各回授業の内容に関連する教科書ページについて読んでおくこと。</p>
関連科目	<p>工芸実習基礎 I・II、建築デザイン演習 I・II・III</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>各回ごとにその日書いたスケッチを見ながら講評を行う。最終回には、作成したポートフォリオに対して全体での講評を行う。</p>
科目ナンバリング	<p>COM-MA203S</p>

講義名	室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小梶 吉隆	KYOB I 工芸学部

到達目標	インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。
授業概要	インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から、さらに具体的な事例を通じての解説を交え、インテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等についての講義を行う。 建築学科のディプロマシー1, 2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介 第2回 インテリア空間 第3回 インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説 第4回 インテリアスタイル 第5回 家具デザイン 第6回 ウインドトリートメント 第7回 ライティングデザイン、 第8回 インテリア設備 第9回 マテリアルコーディネート 第10回 カラーコーディネート 第11回 エルゴノミクス（人間工学） 第12回 室内環境 第13回 インテリア計画と発想 第14回 エンバサルデザイン、サステイナブルデザイン 第15回 インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート
成績評価	評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（40%）、修得確認のためのファイナルレポート＜必須＞（20%）によって評価する。
教科書	図解テキスト「インテリアデザイン」 /井上書院 /小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	室内意匠・生活文化に関して、日常から幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の該当講義（1コマ）章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。 また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。
関連科目	「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「伝統工芸概論」「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	毎回のミニレポート課題により、限定コメント等により質疑応答を行う。
科目ナンバリング	COM-DE308L

講義名	建築生産論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 河村 大助	KYOBI 工芸学部

到達目標	建築生産(1企画・計画、2設計、3施工、4保全、5解体・廃棄)の一連の流れを理解する。更に、各生産工程の中での、ステークホルダー、契約図書、関連法規、建築材料、工法の位置づけ、関連を理解することで建築生産についての理解を深める。
授業概要	この授業は将来、建築設計・インテリア・施工等に関わる職業を志望する学生諸君を対象に、「建物はどのようにつくられ、どのような一生をたどるか」について具体的にビジュアルで示しつつ平易に解説する。 まず、施工については、準備、仮設工事から、本設工事、竣工検査までの全体プロセスを重視し、各種の工法的特徴、前後工事との関係などに重点を置いた説明を行う。 更に、施工の前段階である計画・設計および完成後の維持管理、リニューアル、そして、解体まで視野に入れた内容とすることにより、建物の一生を俯瞰する建築生産論の理解を目指す。 本科目は、建築学科のディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回×90分 第1回 ガイダンス、建築生産とは1、小テスト 第2回 建築生産とは2、小テスト 第3回 解体工事、小テスト 第4回 準備工事(調査)、小テスト 第5回 準備工事(仮設)、山留め工事、小テスト 第6回 杭工事、土工事、小テスト 第7回 躯体工事(コンクリート)1、小テスト 第8回 躯体工事(コンクリート)2、小テスト 第9回 躯体工事(鉄骨)3、小テスト 第10回 外装工事、小テスト 第11回 内装工事、小テスト 第12回 設備工事、小テスト 第13回 外構・その他工事、竣工、小テスト 第14回 維持・保全・改修、小テスト 第15回 建築生産とデザイン、総括
成績評価	出席態度(30点)、各授業の最後に小テスト(70点)を実施して評価する。
教科書	「施工がわかる イラスト建築生産入門」 日本建設業連合会編 彰国社
参考書 参考資料	授業の中で随時紹介する
履修上の注意	各授業の中で随時指示する。
予習・復習指導	1講義(1コマ)に対して2時間の復習をすること。
関連科目	「建築一般構造Ⅰ・Ⅱ」、「建築材料」、「建築設備」、「建築法規」、「建築構造力学Ⅰ・Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、次の講義の冒頭で、回答及びポイントの解説を行う。

教員の実務経験	30年の建築設計・工事監理の実績、および、5年のCM（コンストラクションマネジメント）実績を持つ。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-DE312L

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 根来 宏典	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築物の設計に必要なとなる材料選定の基本を理解する。
授業概要	建築材料への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学ぶ。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。建築学科のディプロマシーに1に係わる。
授業計画 授業内容	第1回 建築材料概論 第2回 木材についての講義 第3回 木質材料についての講義 第4回 植物材料についての講義 第5回 金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第6回 非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第7回 コンクリートについての講義 第8回 セメント・コンクリートについての講義 第9回 石についての講義 第10回 土・漆喰・石膏についての講義 第11回 焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第12回 ガラス、プラスチックについての講義 第13回 その他の材料についての講義 第14回 レポート発表会 その1 第15回 レポート発表会 その2
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香菜子、他著「建築材料 新テキスト」彰国社
参考書 参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA217L